

看護学部生におけるプレコンセプションヘルス認知向上のための効果的教材開発

木戸久美子 佐藤美奈子
国際医療福祉大学成田看護学部看護学科

研究の背景

本邦における不妊症患者が右肩上がりに増加しており、女性の加齢による妊孕性の変化に対する知識が十分ではないとの報告がある¹⁾。また、月経異常を放置すると将来不妊症につながることも指摘されているが、月経は女性にとって重要な健康の指標でありながら学校教育の中では一般的な指導しかなされていない²⁾。

研究目的

本研究は、将来の母性となる若い世代の女性に、妊娠前の健康意識（妊孕性や月経に関すること）を高め、その保健指導の重要性を認識してもらうための基礎的知識を補う教育教材を開発しその有用性を評価することを目的とした。

方法

女性の妊孕性と月経に対する意識を向上させるための教材動画を作成した (<https://youtu.be/vevsoC95yOw>)。動画のコンテンツを下記に示す。

1. プレコンセプションヘルス概念の説明
 - プレコンセプションヘルスケアの狙い
 - プレコンセプションヘルスケア推進の背景
2. 女性ホルモン
 - 月経周期の調節機序
 - 卵胞期
 - 黄体期
 - 排卵期
 - 月経期
3. 月経と妊孕性の関係
 - 女性の妊孕力
 - 男性の妊孕力
 - 月経異常の定義
 - 月経異常の原因
 - 月経困難症・緊張症およびその対処

動画を視聴した後、妊孕性と月経に対する認識について独自に作成した質問紙を用いて評価した。対象者のプロフィール以外には、下記の質問項目を設定した。回答形式は、単一回答形式、一部多項回答形式

I 女性の妊孕性についての認知度（5項目）単一回答形式

- Q 女性の妊孕力は年齢と深く関係しており、35歳を過ぎると妊孕力は顕著に減少し、40歳を過ぎると急速に減少する。
Q 年齢とともに子宮筋腫等の婦人科疾患の罹患率が増加し、妊娠に際し着床や胎児の成長を阻害する可能性が高くなる。
Q 女性側が月経不順や無月経期間が長い場合、器質的な原因による月経困難症等がある場合は、不妊症になる可能性が高くなる。
Q 女性は年齢が増加すると生殖補助医療（不妊治療）による妊娠率や生産率（児を出産する率）は減少する。
Q 女性の年齢が上昇すると、周産期死亡率（妊娠22週以降の胎児や生後1ヶ月以内の新生児の死亡率）が上昇する。

II 自己の月経および月経異常の有無とその対処法に関する項目（15項目）単一回答形式、一部多項回答形式

- Q 月経異常の有無
 - 周期の異常
 - 日数の異常
 - 量の異常（主観的）

Q 月経に伴う症状の有無
 - 月経前緊張症
 - 月経困難症
 - それらの対処について 等

本研究は、保健教材を作成し、その評価を行うことから、将来、保健指導に携わる可能性のある看護学部女子学生180人に研究の趣旨を説明し協力を依頼した。分析には、SPSS Ver.24を使用し、質問紙の回答結果から記述統計を求めた。

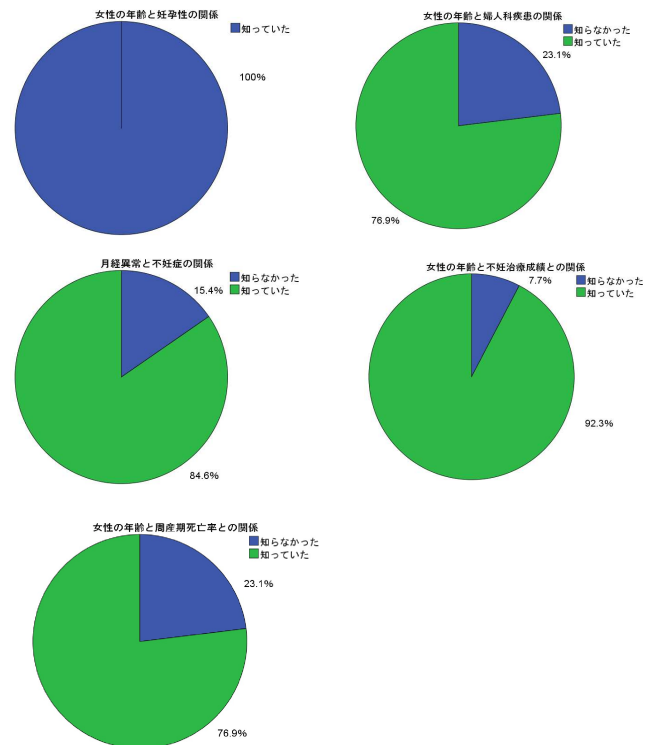
倫理的配慮

本研究は、国際医療福祉大学倫理委員会の承認（承認番号16-10-172）を得て実施した。

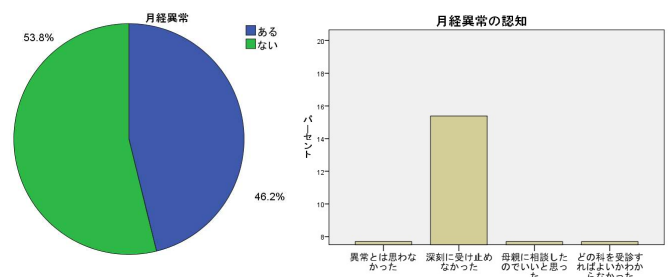
結果

本研究に同意の得られた13人に対して、妊孕性と月経・月経異常の知識およびその対処法に関する自作動画を視聴し、質問紙に回答してもらった。回答者の平均年齢は**21.3（19-34）歳**だった。

I 妊孕性の認知度



II 自己の月経および月経異常の有無とその対処法に関する項目（抜粋）



考察

妊孕性や月経および月経異常の知識に関する動画視聴により、対象者は、改めて自己の月経異常に気付く契機になっていたことが明らかになった。また、妊孕性に関する知識についてもさらに深めることに繋がり、将来の医療専門職として、自己の月経を知り、異常の判断などの知識が得られたことは今後の保健指導の必要性を意識する契機になる。この教材はプレコンセプションヘルス啓蒙の一助として有用であると推察した。

文献

- 1) 若杉 聡美, 種部 恭子, 高校生における結婚・拳児の希望および加齢と妊孕性に関する知識, 富山県産科婦人科学会雑誌, 30, 12-16, 2014
- 2) 秋月百合, 大橋勇一, 太田隈美幸, 今坂洋志, 加齢による妊孕性の変化を組み込んだ中学校性教育の授業開発～「二次性徴」「月経・射精」「生命誕生」の授業を通して～, 熊本大学教育実践研究, 33, 163-171, 2016